



自然言語によるPTZカメラ制御 画角外の対象も記憶し、自然言語で構図を制御するPTZカメラ

キヤノン株式会社 古徳 雅史 (sse09-07)

開発における問題点

自然言語によるカメラ制御では、PTZ値ではなく対象そのものを指示するため、対象の同定と位置把握が必要となる。しかし、カメラの移動に伴い対象が画角外へ出ると、現在の映像のみでは対象位置を推定できず、画角外の指示対象へカメラを誘導できない。

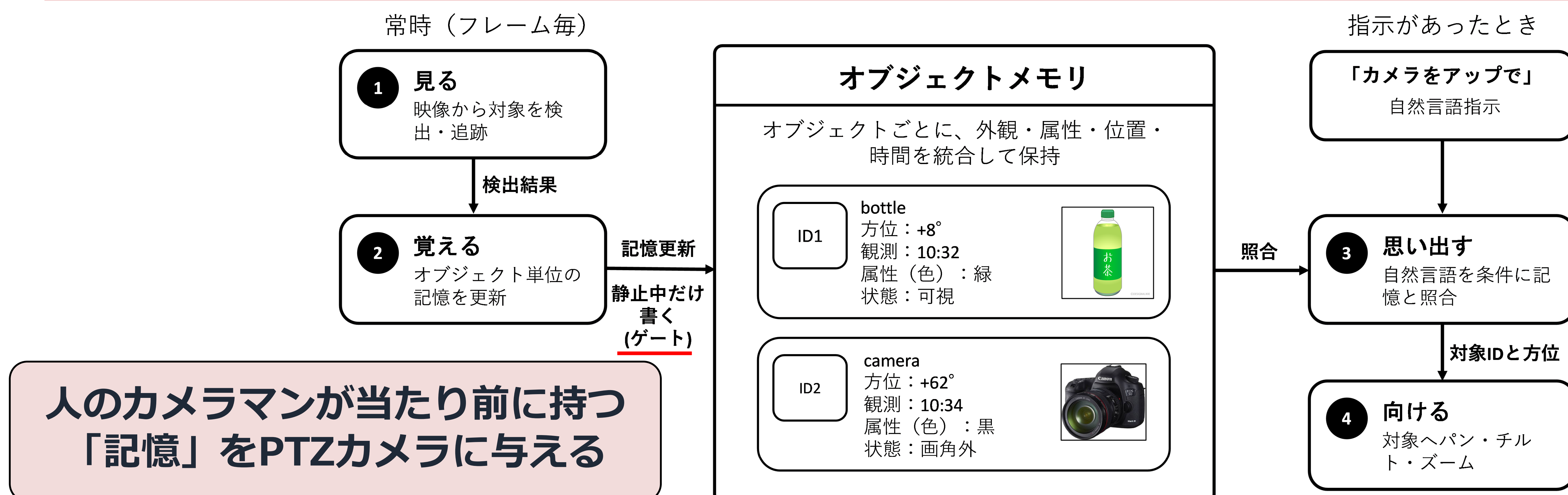


映像制作における構図変化の例

手法・ツールの適用による解決

- 対象ごとの位置情報と外観特徴を記憶する
- 信頼性の高い観測時のみ記憶を更新する
(ゲートを設けて誤記憶を抑制する)
- 指示内容と記憶情報を照合し、画角外の対象に対しても直接カメラを誘導する
(探索時間が不要になる)

提案システムの構成

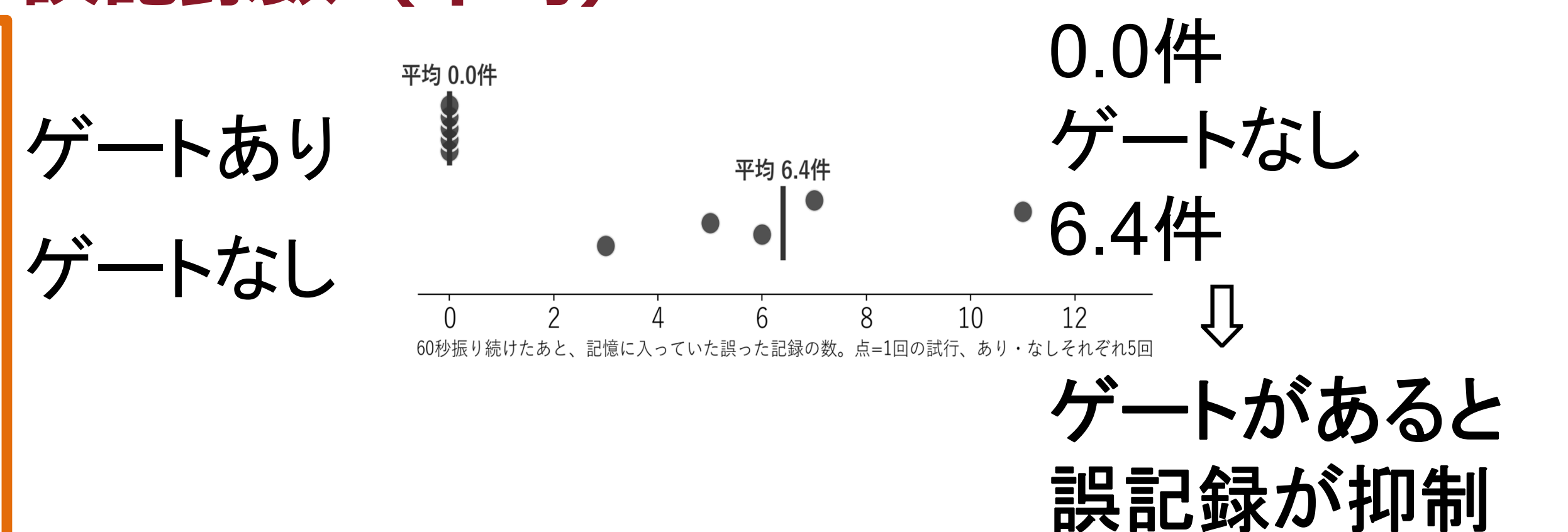


実装画面と評価結果

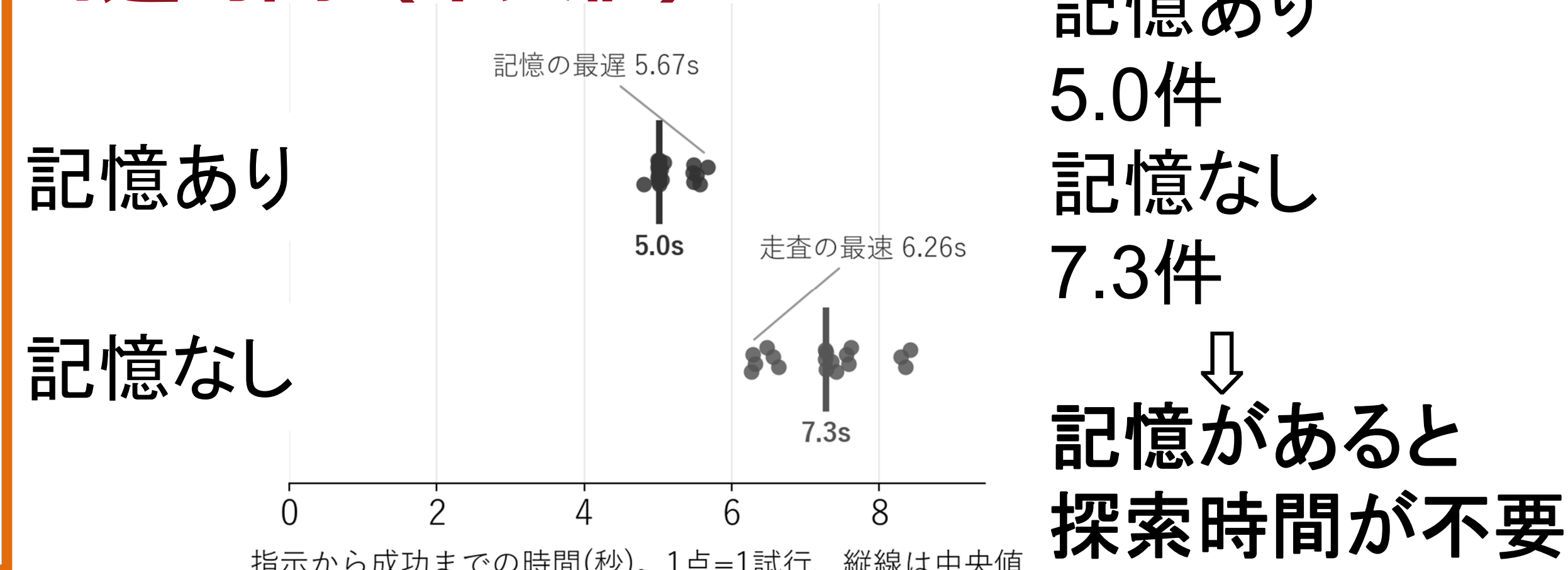
GUI: 検出映像と対象の記憶



誤記録数（平均）



到達時間（中央値）



記憶機構の導入により、画角外を含む指示対象へのカメラ誘導の精度および速度が向上した

スマートエスイー:スマートシステム&サービスおよびDX推進を担う人材の産学連携育成